

2015.12.17

vol.44

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品

### 群衆



12月17日(木)

① 10:30 ~ 12:35

② 14:00 ~ 16:05

クビになりかけた女性記者アンが起死回生の策として、一人の架空の自殺志願者を創り出す。オーディションに受かった男は元野球選手ウィロービー。名無しの権兵衛=ジョン・ドゥーと名付けられた彼は、自殺の期日を定められ、その動向を日々追われ、彼女の新聞記事となっていく……。

監督：フランク・キャブラ

原作：リチャード・コネル、  
ロバート・プレスネル

出演：ゲイリー・クーパー  
バーバラ・スタンウィック  
ウォルター・ブレナン  
エドワード・アーノルド

製作：1941年アメリカ モノクロ

上映時間：124分

### 『エデンの東』感想 (一部)

- ・心の底から“たましい”をゆさぶられた感じです
- ・永遠のスターに再会できた思いです。今一度青春に戻りたいなあ。
- ・ジェームス・ディーンとテーマ曲 私の青春でした。
- ・永遠のジェームス・ディーン、自分の胸の中に永遠に生きている。50年前、岡崎のタカラ劇場で観賞。
- ・子供の時 先輩方に人気があったが、私は興味もなく。この年で初めて知り感動です。ディーンの愛らしさ、男らしさが私の年代にはたまらなくかわいいです。
- ・素晴らしい映画です。若い年から何度も見てますが、その度に違った気付き、感動があります。

- ・私もクリスチャンです。父の思いもわかる気がします。愛や信頼がなければ何もつたわらないのだと思いました。
- ・父子や兄弟の愛と確執が良く描かれていた。若い人にも見てもらいたい映画です。
- ・私より年上の人たちや映画の好きだった姉を思い出します。有名な映画だったのに、今日やっと会えた作品です。
- ・以前から見たいと思っていた映画が見られてよかったです。
- ・昔観たが久しぶりに観たら、また感動して泣けた。

# 映画を読む 『 群衆 』

「笑いと感動と恐怖」が混在する K.M.

今回上映は1930年代のアメリカ映画界を代表する、フランク・キャブラ監督の『群衆』です。彼の作品の「リズ」での上映は第9回の『素晴らしき哉、人生!』に続いて2回目です。

楽天主義、アメリカン・ドリーム、ユーモア、ヒューマニズムをふんだんに取り入れたキャブラ監督の作品は、大恐慌の傷跡が残り、暗い世相の1930年代のアメリカで、「観る者を明日の希望へと導いてくれる作品」「アメリカの良心を描く作品」として大いに受け入れられ、1935年から1939年にかけて、立て続けにアカデミー賞を3回も獲得しました。今回上映の『群衆』の製作は、その少し後、第2次世界大戦にアメリカが参戦し、戦域が全世界に広がった1941年。日本での公開は終戦後しばらくしての1951年です。

この頃になるとアメリカでのキャブラ熱はかなり冷めており、日本でもこの作品は、あまり話題にはならなかったようです。当時中学生ながら大の洋画ファンだった私の記憶にも全くなく、今回上映に先立つDVDでの下見も、「クーパーにこんな主演作があったんだ」くらいの軽い気持ちで始めたのですが、意外にも、現代社会にも通じる重いメッセージを含む素晴らしい作品で、襟を正す気持ちになりました。

出だし、古いニュース映画の群衆シーンを早送りで見ると、オープニングクレジットが終わると、唐突に「自由な新聞社 (Free Press)」と

書かれた新聞社の看板が「合理的な新聞社 (Streamlined Newspaper)」と変えられるシーンが始まり、小気味よいカットの連続で新聞社内のリストラへと話がつながっていきます。そして、リストラの対象となるヒロインの登場。瞳がきらきらする魅力的な彼女が、書き直された編集長室のガラスを割り、ゴミ箱を蹴飛ばし人をアツと言わせるコラムをダダッとタイプして、さっさと会社を去っていく…、バーバラ・スタンウィックの演技力と美しさに脱帽です。

そして、「架空の主人公——ジョン・ドゥー」を演じるクーパーの登場。純粋なハートを持っているが、グズで世間知らずな青年の役です。透き通るような美しい眼差し、さりげない演技、印象的な声…、数ある出演映画のなかでも、最もクーパーの魅力が映像化されている気がします。クーパーって大根役者かな? と思ったこともありますが、この映画など見ると、とてつもない演技派であったようにも思えてきます。

あと一人、重要な存在はウォルター・ブレナン。さすがアカデミー助演男優賞を3回取っただけあり、考えようによっては絵空事めいたストーリー展開の裏で、現代の我々に近い批判的な視点で状況の推移を見守り、主人公を支える相棒を巧みに演じています。出番は少ないが、あの何とも言えない眼差しと表情が脳裏から離れません。クーパーとブレナンのハーモニカとオカリナの演奏シーンはとてもいい。

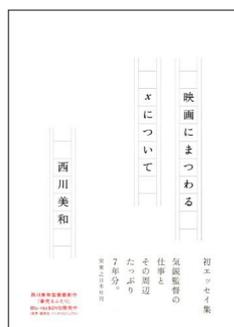
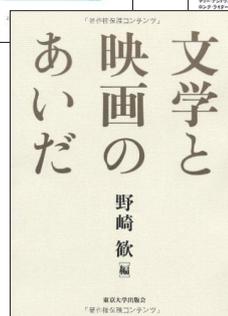
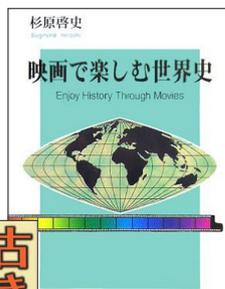
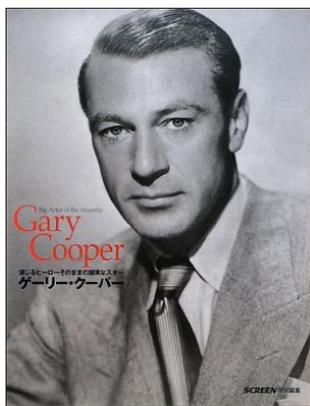
そして強烈な感動的なラストシーン (ネタバレれごめんなさい)。激しい雨の中、全国から会場に押し寄せる群衆は、煽動に乗せられ、崇拜から排撃へと一転してその表情を変える。愛憎は表裏一体。あれだけの群衆を一手に演出し、民衆の心の移ろいややすさを瞬時にして表現してしまうキャブラの才能には脱帽するしかありません。『群衆』を撮っている間、キャブラは收拾がつかなくなったストーリーのエンディングをどうすべきか悩んでいたらしいが、ほろ苦いながらハッピーエンドを見つけてくれています。ラストシーンでのスタンウィックの熱演は見ものです。

総括して、私がこの作品でキャブラから受け取ったメッセージは、「我々人間は、一つの情報源で動くロボットでもなければ、群れを成す蟻でもない。一人一人が『意思』を持ち、『意思』をより正確に持つために『隣人を愛し』色々な人間と話をし、色々な意見を聞き、自分なりのフィルタを掛けて、自分の『意思』を作っていくてほしい」。情報源が無数にある現代の私達にも大切な原理だと思います。



今回は上映作品関連の図書が少ないため、変わり種の図書を集めてみました。

『ゲーリー・クーパー』 演じるヒーローそのままの誠実なスター		近代映画社	778.2
『古き良き時代の外国映画』	本吉 瑠璃夫／著	文芸社	778.2
『映画で楽しむ世界史』	杉原 啓史／著	近代文芸社	230
『DVD 映画で楽しむ世界史』	大串 夏身／著	青弓社	778.04
『映画で読む 21 世紀』 世紀末の映像と来たるべき世界	長坂 寿久／著	明石書店	778.2
『映画で読む二十世紀』この百年の話	田中 直毅／著	朝日新聞社	778.04
『映画で地球を読む』 地球市民のための教養講座	三輪 昭子／著	黎明書房	778.04
『文学と映画のあいだ』	野崎 欽／編	東京大学出版会	778.04
『世界文学を DVD 映画で楽しもう!』	大串 夏身／著	青弓社	778.04
『立川志らくの現代映画聖書』	立川 志らく／著	講談社	778.04
『映画の構造分析』 ハリウッド映画で学べる現代思想	内田 樹／著	晶文社	778.253
『銀幕横断超特急』乗り物映画コレクション	高橋 いさを／著	論創社	778.04
『映画にまつわる x について』	西川 美和／著	実業之日本社	778.04
『こども映画教室のすすめ』	土田 環／編	春秋社	778.07



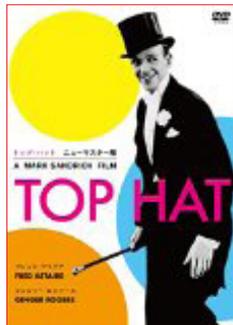
# インフォメーション

## 第45回『トップ・ハット』

1月21日(木)

① 10:30 ~ 12:10

② 14:00 ~ 15:40



ロンドンに招かれたアメリカのダンス・スター、ジェリーが興業主ホーレスと共に滞在中のホテルに、ヴェニスで過ごすホーレスの妻マッジから、週末に彼に紹介したい女性がある旨の連絡が入る。気をよくした彼は部屋で一踊り。これがハメを外しすぎで、下の部屋に住むアメリカ娘のデールから苦情が…。

監督：マーク・サンドリッチ

原作・脚本：ドワイト・テイラー

出演：フレッド・アステア

ジンジャー・ロジャース

エドワード・エヴェレット・ホートン

H・プロデリック

製作：1936年アメリカ モノクロ

上映時間：99分

## 第46回『雨の朝パリに死す』

2月18日(木)

① 10:30 ~ 12:30

② 14:00 ~ 16:00



終戦の日のパリで出会った元従軍記者で作家の卵チャールズと美しい娘ヘレン。やがて劇的にゴールインするが、ヘレンの姉マリオンもチャールズを愛していたが、傷心を抱えたままクロードと結婚。妹夫婦には娘ヴィッキーが誕生したが、奔放なヘレンは毎夜遊び歩き、家に寄りつかない。そのうち、夫も酒に溺れるようになる。ヘレンは病床に就きやがて死に、娘は姉夫婦のもとで育てられることに……。

監督：リチャード・ブルックス

出演：エリザベス・テイラー

ヴァン・ジョンソン

ドナ・リード

ウォルター・ピジョン

製作：1955年アメリカ カラー

上映時間：116分

## サロン・ド・シネマ

### ホールホワイエにて

寄付金でお茶菓子を提供します。

映画の上映前にご利用ください。

午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。

## 次年度上映予定日(毎回木曜日)

4月21日、5月19日、6月16日

8月4日、9月15日、10月27日

12月15日、1月16日

※開催日は変更になる場合があります。

第3木曜日に限りませんのでご注意ください。

※現在、次年度の上映作品を検討中です。

## 「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター 受付中! 年間: 1口 2,000円から

随時、ご寄付も  
受け付けています。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 070-5333-1842